

W0. イントロダクション

W0.1

(W0.1) 貴社の概要および紹介文を記入してください。

azbilグループは、当社と子会社57社及び関連会社3社により構成され、人々の安心、快適、達成感と地球環境への貢献を目指す「人を中心としたオートメーション」を追求し、建物市場でビルディングオートメーション（BA）事業を、工業市場でアドバンスオートメーション（AA）事業を、ライフラインや生活に密着した市場において、ライフオートメーション（LA）事業を展開しております。その事業内容は、以下のとおりであります。BA事業では、ビルディングオートメーションシステム、セキュリティシステムから、アプリケーションソフト、コントローラ、バルブ、センサまでのフルラインナップを自社にて開発、製造し、また計装設計から販売、エンジニアリング、サービス、省エネソリューション、設備の運営管理までを一貫した体制で提供し、独自の環境制御技術で、快適で効率の良い執務・生産空間の創造と、環境負荷低減に貢献する事業を展開しております。AA事業では、石油、化学、鉄鋼、紙パルプ等の素材産業や、自動車、電気・電子、半導体、食品等の加工・組立産業の課題解決に向け、装置や設備の最適運用をライフサイクルで支援する製品やソリューション、計装・エンジニアリング、保守サービスを提供し、先進的な計測制御技術を発展させ、安全で人の能力を発揮できる生産現場の実現を目指すとともに、お客様との協働により新たな価値を創造する事業を展開しております。また、LA事業では、建物市場や工業市場で永年培った計測・制御・計量の技術を、ガス・水道等のライフライン、生活の場、ライフサイエンス研究、製薬・医療分野等に提供し、人々のいきいきとした暮らしに貢献する事業を展開しております。

W0.2

(W0.2) データの報告年の開始日と終了日を入力してください。

	開始日	終了日
報告年	2019年4月1日	2020年3月31日

W0.3

(W0.3) データを提供する対象の国/地域を選択してください。

中国
日本
タイ

W0.4

(W0.4) 回答全体を通じて財務情報の開示に使用する通貨を選択してください。

日本円(JPY)

W0.5

(W0.5) 貴社の事業への水の影響の報告にあたり、対象となる企業、事業体、グループの報告バウンダリ(境界)として最も当てはまるものを選択してください。
財務管理下にある企業、事業体、またはグループ

W0.6

(W0.6) 上記報告範囲の中で、本情報開示から除外される地域、施設、水に関する側面、その他の事項はありますか。
はい

W0.6a

(W0.6a) 除外されるものについて説明してください。

除外対象	説明してください
水使用量が把握できないテナントオフィス	ほとんどの賃貸事務所では、水は賃貸契約を通じて供給されており、オーナーがその管理を行っています。オーナーから水使用量の情報提供が得られない物件は本報告から除外しています。これは全体の水使用量のほんの一部であり、水リスクへの影響はほとんどないと考えています。

W1. 現在の状態

W1.1

(W1.1) 貴社事業の成功には、水質と水量はどの程度重要ですか。（現在および将来の）重要度をお答えください。

	直接利用の重要度評価	間接利用の重要度評価	説明してください
十分な量の良質な淡水を利用できること	重要である	重要である	[直接的使用] 良質な水は、従業員の職場環境を衛生的に保ち、冷却や洗浄などの製造工程に安定した水が使用可能であることが重要です。中でも、藤沢テクノセンターのセンサを製造するクリーンルームでは将来においても良質な淡水が使用可能であることが重要です。[間接的使用] 部品や原材料がサプライヤーで製造されるときに冷却や洗浄などの工程で、将来とも十分な量の良質な淡水が必要です。
十分な量のリサイクル水、半塩水、随伴水を利用できること	中立	あまり重要でない	[直接的使用] リサイクル水、半塩水及び随伴水は使用していませんが、水資源の有効活用のため、クリーンルームからの純水廃液をトイレ洗浄水として再利用しています。しかし、これはコスト削減にはなりますが、事業に影響を及ぼすものではありません。[間接的使用] 将来的には水不足によりリサイクル水の利用を考慮する必要が出てくるかもしれませんが、現在はその利用を計画していないため、それほど重要ではありません。

W1.2

(W1.2) 水に関する以下の側面について、貴社事業全体でどの程度の割合を定期的に測定・モニタリングしていますか。

	操業地/施設/事業の比率 (%)	説明してください
取水 - 総取水量	100%	環境方針の資源の有効活用に従って、目標に水使用量の削減を設定しています。すべての事業所で水使用量を毎月監視・測定しています。
取水 - 水源別取水量	100%	環境方針の資源の有効活用に従って、目標に水使用量の削減を設定しています。すべての事業所で水使用量を毎月監視・測定しています。
貴社の金属・鉱業セクター活動に関連した混入水・総量 [金属・鉱業セクターのみ]	<Not Applicable>	<Not Applicable>
貴社の石油・天然ガス事業活動に関連した随伴水・総量 [石油・ガスセクターのみ]	<Not Applicable>	<Not Applicable>
取水の水質	100%	ほとんどの取水は市水で飲料水としても利用していますので、事業所単位で水質を監視しています。
排水 - 総排水量	76-99	工場や自社建物では、排水規制に従って定期的に監視しています。水使用量全体の4%を占めるオーナーが管理するテナントオフィスは監視していません。
排水 - 放流先別排水量	76-99	工場や自社建物では、排水規制に従って定期的に監視しています。水使用量全体の4%を占めるオーナーが管理するテナントオフィスは監視していません。
排水 - 処理方法別排水量	76-99	工場や自社建物では、排水規制に従って定期的に監視しています。水使用量全体の4%を占めるオーナーが管理するテナントオフィスは監視していません。
排水の質 - 標準的排水基準別	76-99	工場や自社建物では、地域の排水規制または自主基準を適用して定期的に監視・測定しています。水使用量全体の4%を占めるオーナーが管理するテナントオフィスは定期的な監視・測定は行っていませんが、オーナーの指示に従った管理・運営を行っています。
排水の質 - 温度	1-25	通常は製造段階での高温排水などはないため、緊急事態を除いて、特別な排水の温度監視は実施していません。
水消費量 - 総消費量	76-99	製品には水を使用していません。工場や自社建物から排出される廃棄物（汚泥）に含まれる水消費量を推計しています。
リサイクル水/再利用水	76-99	藤沢テクノセンターではクリーンルームからの純水廃液をトイレ洗浄水として再利用しています。
十分に機能し完全に管理された上下水道・衛生 (WASH) サービスを全従業員に提供	100%	全従業員の健康と安全衛生を確保するために、すべての事業所において、清潔で安全な水を提供しています。

W1.2b

(W1.2b) 貴社事業全体で、取水、排水、消費された水それぞれの総量をお答えください。また、それらの量は前報告年と比較してどうでしたか？

	量 (メガリットル/年)	前報告年との比較	説明してください
総取水量	127.29	少ない	前報告年は136.85で、前年と比較して7%減少しました。
総排水量	127.14	少ない	前報告年は136.69で、前年と比較して7%減少しました。
総消費量	0.15	ほぼ同じ	前報告年は0.16でした。

W1.2d

(W1.2d) 水ストレス下にある地域から取水しているか否かを示し、その割合を記入してください。

	取水は水ストレス下にある地域からのものです	水ストレス下にある地域からの取水の割合	前報告年との比較	確認に使用したツール	説明してください
行 1	はい	11 ~ 25	ほぼ同じ	世界資源研究所(WRI)が発表したアキダクト (AQUEDUCT (水管、送水路))	その地域は中国とタイで、総取水量に占める割合は21%で、前報告年は19%でした。

W1.2h

(W1.2h) 水源別の総取水量をお答えください。

	事業への関連性 (relevance)	量 (メガリットル/年)	前報告年との比較	説明してください
淡水の地表水(雨水、湿地帯の水、河川、湖水を含む)	関連性がない	<Not Applicable>	<Not Applicable>	藤沢テクノセンターでは雨水をトイレ洗浄水に利用していますが、年間の利用量は3.66メガリットルでした。
汽水の地表水/海水	関連性がない	<Not Applicable>	<Not Applicable>	我々は、汽水の地表水/海水を使用しておらず、使用する予定もありません。
地下水 (再生可能)	関連性がない	<Not Applicable>	<Not Applicable>	我々は地下水を使用しておらず、使用する予定もありません。
地下水 (非再生可能)	関連性がない	<Not Applicable>	<Not Applicable>	我々は地下水を使用しておらず、使用する予定もありません。
随伴水/混入水	関連性がない	<Not Applicable>	<Not Applicable>	我々は随伴水/混入水を使用しておらず、使用する予定もありません。
第三者の水源	関連する	127.29	少ない	前報告年は136.85で、7%減少しました。水源は全て市水です。

W1.2i

(W1.2i) 放流先別の総排水量をお答えください。

	事業への関連性(relevance)	量 (メガリットル/年)	前報告年との比較	説明してください
淡水の地表水	関連する	37.83	多い	下水道がなく、浄化槽などで処理している拠点の排水が該当します。前報告年と比較して6%増加しました。
汽水の地表水/海水	関連性がない	<Not Applicable>	<Not Applicable>	我々は汽水の地表水/海水へ排水していません。
地下水	関連性がない	<Not Applicable>	<Not Applicable>	我々は地下水へ排水していません。
第三者の放流先	関連する	89.46	少ない	前報告年と比較して11%減少しました。

W1.4

(W1.4) 水関連問題について、貴社のバリューチェーン上でエンゲージメントを行っていますか。

いいえ、現時点ではありませんが、今後2年以内にエンゲージメントする予定です

W1.4d

(W1.4d) 水関連問題について、バリューチェーン上のどの段階ともエンゲージメントを一切行わない理由をお答えください。また、今後エンゲージメントする計画はありますか。

	主な理由	説明してください
行 1	今後2年以内に実施予定です	我々は、グリーン調達の一環として、サプライヤーに水の「使用量の把握」と「削減計画の策定」を依頼し評価項目の一つとしております。我々の製品は水を直接的に取り扱っていませんので、現時点での水関連の問題の影響は少ないと考えています。しかしながら、昨今海外生産・調達が増大していますので、海外のサプライヤーにおける調達段階での水リスク対応にも取り組んでいく計画です。

W2. 事業への影響

W2.1

(W2.1) 貴社はこれまでに、水関連の悪いインパクトを被ったことはありますか。

いいえ

W2.2

(W2.2) 貴社は報告年に、水関連の規制違反を理由として罰金、法的命令、その他のペナルティを科されましたか。

いいえ

W3. 手順

W3.3

(W3.3) 貴社では水関連のリスクの評価を実施していますが、
はい、水関連のリスクを評価しています

W3.3a

(W3.3a) 水関連のリスクの特定と評価の手続きとして最も当てはまるものを選択してください。

直接操業

対象範囲

全部

リスク評価手順

環境リスク評価で水リスクを評価します

評価の頻度

年1回

どの程度の将来のリスクまで考慮しているか

1～3年

利用しているツールと手法の種類

市販のツール

その他

利用しているツールと手法

世界資源研究所(WRI)が発表したアキダクト（AQUEDUCT（水管、送水路））

社内的な方法

コメント

我々は、環境影響評価の結果や事業継続・早期復旧のためのBCP対応の観点から調査するとともに、WRI Aqueductを使用して工場や自社建物を評価しています。

サプライチェーン

対象範囲

なし

リスク評価手順

<Not Applicable>

評価の頻度

<Not Applicable>

どの程度の将来のリスクまで考慮しているか

<Not Applicable>

利用しているツールと手法の種類

<Not Applicable>

利用しているツールと手法

<Not Applicable>

コメント

バリューチェーン上のその他の段階

対象範囲

なし

リスク評価手順

<Not Applicable>

評価の頻度

<Not Applicable>

どの程度の将来のリスクまで考慮しているか

<Not Applicable>

利用しているツールと手法の種類

<Not Applicable>

利用しているツールと手法

<Not Applicable>

コメント

W3.3b

(W3.3b) 貴社の水関連のリスク評価では、全体的状況に関わる以下のどの問題が考慮されていますか。

	関連性および組み入れ	説明してください
河川流域/集水地における取水可能な水資源量	関連性があり、常に評価に含めている	我々はAquaductツールを使用して、地域レベルでの現在の水利用可能性を評価しています。また、水の安定供給が必要なため、定期的なモニタリングを実施しています。
河川流域/集水地における水質	関連性があり、常に評価に含めている	我々はAquaductツールを使用して、地域レベルでの現在の水質を評価しています。また、水の安定供給が必要なため、定期的なモニタリングを実施しています。
河川流域/集水地における水資源に関連したステークホルダー間対立	関連性があり、常に評価に含めている	我々は、ISO14001の活動をベースにステークホルダーからの要望事項の対応フローを構築していますが、現時点では、水資源に関する苦情や問合せは発生していません。
主要商品/原材料に対して水が持つ意味	関連性があり、常に評価に含めている	我々の事業は計測制御がメインであり、水リスクは低いと考えていますが、すべての新製品においてライフサイクルアセスメントおよび環境設計アセスメントを実施し、水資源の影響を含めた評価をしています。
水関連の規制枠組み	関連性があり、常に評価に含めている	我々は、ISO14001の活動をベースに法規制を順守しています。
生態系および動植物生息環境の状態	関連性があり、常に評価に含めている	我々は、ISO14001の活動をベースに省エネルギー、省資源（節水）、汚染予防を推進しています。
全従業員が、適正に機能し完全に管理された上下水道・衛生（WASH）サービスを利用できること	関連性があり、常に評価に含めている	我々は、全社の安全衛生活動の一環として、すべての従業員に安全な水と衛生的な設備を提供しています。
全体的状況に関わるその他の問題（具体的にお答えください）	選択してください	

W3.3c

(W3.3c) 貴社の水関連のリスク評価では、以下のどのステークホルダーが考慮されていますか。

	関連性および組み入れ	説明してください
顧客	関連性があり、常に評価に含めている	我々の製品自体には水を使用していませんが、製造工程で水を使用していますので、お客様からの問い合わせがあれば適切に対応します。
従業員	関連性があり、常に評価に含めている	安全な水はすでに従業員に供給されています。従業員と積極的にコミュニケーションをとり、その情報を反映しています。
投資家	関連性があり、常に評価に含めている	投資家からの非財務に関する情報開示の要請は日々高まっており、これらの要求に答えていくことが重要です。特に、ESG評価機関からの質問の中に水リスクに関連するものも増加していますので、水関連の情報を投資家に開示しています。
地域社会	関連性があり、常に評価に含めている	水の供給者と良好な関係で水を安定して確保する必要があります。従って、これは重要であり、評価に含まれています。地域とのコミュニケーションを通じて情報を得て、評価に反映します。
NGO	関連性があり、常に評価に含めている	我々は積極的にNGOとコミュニケーションをとり、その情報を反映したいと思います。ただし、ステークホルダーは、水よりも温室効果ガス（気候変動）に大きな関心を持っています。
河川流域/集水地におけるその他の水利用者	関連性があり、常に評価に含めている	水の供給者と良好な関係で水を安定して確保する必要があります。従って、これは重要であり、評価に含まれています。関連する水利用者とのコミュニケーションを通じて情報を得て、評価に反映します。
規制機関	関連性があり、常に評価に含めている	我々は規制当局の懸念を水のリスク評価に配慮し、規制の順守を維持しています。我々は引き続き、すべての事業所におけるリスクを緩和するために規制当局とのコミュニケーションを継続します。水に関する規制は順守されています。
河川流域管理当局	関連性があり、常に評価に含めている	水の供給者と良好な関係で水を安定して確保する必要があります。従って、それは重要であり、評価に含まれています。定期的な地域とのコミュニケーションを通じて情報を得て、評価に反映します。水に関する規制は順守されています。
地域レベルの法定の特権利益集団	考慮していない	現在、地域レベルの法定特権利益団体とは関係がありません。
サプライヤー	関連性があり、常に評価に含めている	我々はグリーン調達ガイドラインで、サプライヤーに関する情報を入手し、評価しています。今後Aquaductツールを使用して、現地レベルでのサプライヤーの現在および将来のリスクを予測したいと考えています。
地域レベルの水道事業者	関連性があり、常に評価に含めている	我々は、エネルギーと水の消費を削減するための環境管理目標を設定しています。売上高は拡大する計画ですが、水使用量は増やさない計画としています。
その他のステークホルダー（具体的にお答えください）	選択してください	

W3.3d

(W3.3d) 貴社の直接操業およびバリューチェーンの他の段階における水関連のリスクの特定、評価、それへの対応に用いている、貴社のプロセスを具体的に説明してください。

アズビルグループの経営成績および財政状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクについては年に一度リスク評価（環境影響評価、Aquaductツール）を実施し、経営層と関連部門によるリスク軽減策やリスク発生時の対応策を講じています。この中で水関連リスクについては、国際事業に伴う生産・調達活動への対応、災害による事業継続・早期復旧のための対策（BCP対策）、事業展開する各国の環境法規制の強化対応等を考慮に入れています。

W4. リスクと機会

W4.1

(W4.1) 貴社ではこれまで、事業に財務または戦略面で重大な影響を及ぼす可能性のある特有の水関連のリスクを特定したことがありますか？

はい、直接操業においてのみ

W4.1a

(W4.1a) 貴社では、事業に及ぶ財務または戦略面での重大なインパクトを、どのように定義していますか。

我々は、水質悪化（環境汚染）・洪水（自然災害）・取水制限（規制強化）を水リスクとして捉えています。このリスクの中で、水質は監視・測定を定期的を実施しています。洪水に関しては保険の付与やBCP対応の観点から、定期的なリスク分析を行っています。取水制限などについては、Aqueductツールを使用して総合的なスクリーニングを行っています。最もリスクが高いと判断された施設は、中国とタイにある施設でした。

W4.1b

(W4.1b) 貴社の施設のうち、事業に財務または戦略面で重大なインパクトを及ぼす可能性のある水関連リスクをもつ施設は、合計でいくつありますか。またそれは貴社の施設全体のどの程度の割合を占めますか。

	水リスクのある施設の総数	全施設に対する比率 (%)	コメント
行1	2	1-25	これらの施設では、水ストレスが増大し、十分な質と量の水が得られなくなる可能性があります。

W4.1c

(W4.1c) 河川流域別に、貴社の事業に重大な財務上または戦略上の影響を及ぼす可能性のある水関連のリスクにさらされている施設の数と割合はいくらですか、また、これらの施設に関連する、事業への潜在的影響とはどのようなものでしょうか。

国/地域および河川流域

中国	その他、具体的にお答えください(大連)
----	---------------------

水リスクのある施設の数

1

全施設に対する比率 (%)

1-25

これら施設に関連する金属および鉱業活動の生産額

<Not Applicable>

貴社の年間発電総量に対し、これらの施設の潜在的影響下にある発電量の比率 (%)

<Not Applicable>

貴社の石油・天然ガス総生産量（世界全体）に対し、これらの施設の潜在的影響下にある生産量の比率 (%)

<Not Applicable>

貴社の世界全体での総収入に対し、潜在的影響下にあるものの比率 (%)

1-10

コメント

全施設に対する比率は12%で、全売上高に占める割合は約2%です。

国/地域および河川流域

タイ	その他、具体的にお答えください(チョンブリー)
----	-------------------------

水リスクのある施設の数

1

全施設に対する比率 (%)

1-25

これら施設に関連する金属および鉱業活動の生産額

<Not Applicable>

貴社の年間発電総量に対し、これらの施設の潜在的影響下にある発電量の比率 (%)

<Not Applicable>

貴社の石油・天然ガス総生産量（世界全体）に対し、これらの施設の潜在的影響下にある生産量の比率 (%)

<Not Applicable>

貴社の世界全体での総収入に対し、潜在的影響下にあるものの比率 (%)

1-10

コメント

全施設に対する比率は9%で、全売上高に占める割合は約2%です。

W4.2

(W4.2) 貴社の直接操業において、事業に対し財務または戦略面で重大なインパクトを及ぼす可能性があるとして特定されたリスクと、それへの貴社の対応について、具体的に説明してください。

国/地域および河川流域

中国	その他、具体的にお答えください(大連)
----	---------------------

リスクの種類と主なリスク要因

物理的要因	水ストレスの増加
-------	----------

主要潜在的影響

運営コストの増加

企業固有の内容の説明

アズビル機器有限公司が立地する大連では人口増加と経済発展のため水ストレスが増大し、規制が強化される可能性があります。

期間

4～6年

潜在的影響の程度

低い

可能性

可能性が非常に低い

財務上の潜在的影響額をご回答いただくことは可能ですか？

いいえ、このデータはありません

財務上の潜在的影響額 (通貨)

<Not Applicable>

財務上の潜在的影響額 - 最小 (通貨)

<Not Applicable>

財務上の潜在的影響額 - 最大 (通貨)

<Not Applicable>

財務上の影響についての説明

過去に規制強化により、排水処理設備を更新したことがあります。水使用量はそれほど多くないため、総額1,000万円以下と推定しています。

リスクへの主な対応

操業地特有の定量的目標を設定

対応の詳細

我々は、環境方針に基づき、水の有効利用（水使用量の原単位改善）を継続的に行います。

対応の費用

0

対応の費用についての説明

今後とも大量の水使用の可能性はそれほど高くないので、水コストの変化は予期していません。

国/地域および河川流域

タイ	その他、具体的にお答えください(チョンブリー)
----	-------------------------

リスクの種類と主なリスク要因

物理的要因	洪水
-------	----

主要潜在的影響

生産能力の減少または混乱

企業固有の内容の説明

アズビルプロダクションタイランド株式会社が立地するタイでは過去の洪水（2011年）により各企業の生産が大打撃を受けたことがあり、水リスク評価ツールのAQEDUCTv3.0では水リスクへの影響が大きいと判定されています。

期間

4～6年

潜在的影響の程度

低い

可能性

可能性が非常に低い

財務上の潜在的影響額をご回答いただくことは可能ですか？

いいえ、このデータはありません

財務上の潜在的影響額 (通貨)

<Not Applicable>

財務上の潜在的影響額 - 最小 (通貨)

<Not Applicable>

財務上の潜在的影響額 - 最大 (通貨)

<Not Applicable>

財務上の影響についての説明

タイの工場は最近（洪水以降）建設した工場であり、BCPの観点からも洪水リスクに備えた対策を取って建設しています。つまり、立地は洪水の発生した河川流域外であり、敷地に盛り土を行った上で工場を建設しましたので、水リスクの影響は少ないと判断しています。

リスクへの主な対応

サプライヤーとのエンゲージメント

対応の詳細

タイの自社工場自体はBCP対策を施してきましたが、原材料のサプライヤーまでを含めたバリューチェーンの調査を今後とも進めていく計画です。

対応の費用

対応の費用についての説明

W4.2c

(W4.2c) 貴社では、バリューチェーン(直接操業を超える)において、財務または戦略面で重大なインパクトを及ぼす可能性のある水リスクに曝されていないと考える理由は何ですか。

主な理由	説明してください
行1 評価中	今は顕在化していないが、中国リスクで将来的に水の使用が制限される可能性があるため、BCP対応を含め体制を整備中です。主要サプライヤーの水リスクについて調査を計画しています。

W4.3

(W4.3) 貴社ではこれまで、事業に財務または戦略面で重大なインパクトを及ぼす可能性のある水関連機会を特定したことがありますか。

はい、機会を特定したが、それを実現できない

W4.3b

(W4.3b) 貴社には水関連の機会がないと考えるのはなぜですか？

主な理由	説明してください
行1 機会が存在しますが、それを実現することができません	上・下水道産業など水づくりを行うライフラインを支える施設において、環境負荷低減や省エネ対策などの効果を生む製品・サービス・ソリューションを提供し、社会の環境課題解決に貢献しています。一例として、浄水場では、我々の監視制御システムを提供することにより、薬品注入工程の自動化や運転情報の一元管理など適切で効率の良い浄水処理を行い、水質管理の改善による安全・安心と水の安定供給をサポートしています。しかしながら、これらは今後とも全社レベルで事業に及ぼす影響はそれほど大きなものではないと考えています。

W5. 施設レベルの水報告

W5.1

(W5.1) W4.1cで挙げた各施設について、地理座標、水会計データ、前報告年との比較内容を記入してください。

施設参照番号

施設1

施設名 (任意)

アズビル機器(大連)有限公司

国/地域および河川流域

中国	その他、具体的にお答えください(大連)
----	---------------------

緯度

39.06166

経度

121.777194

水ストレス下にある地域に所在

はい

当該施設における発電の、主な発電源

<Not Applicable>

石油・天然ガスセクター事業部門

<Not Applicable>

当該施設における総取水量(メガリットル/年)

15.43

前報告年との総取水量の比較

ほぼ同じ

雨水、湿地帯の水、河川、湖水を含む淡水の地表水からの取水量

0

汽水の地表水/海水からの取水量

0

地下水からの取水量 - 再生可能

0

地下水からの取水量 - 再生不可能

0

随伴水/混合水からの取水量

0

第三者水源からの取水量

15.43

当該施設における総排水量(メガリットル/年)

15.42

前報告年との総排水量の比較

ほぼ同じ

淡水の地表水への排水

0

汽水の地表水/海水への排水

0

地下水への排水

0

第三者の放流先への排水

15.42

当該施設における水総消費量(メガリットル/年)

0.01

前報告年との総消費量の比較

ほぼ同じ

説明してください

2018年の総取水量は15.58。

施設参照番号

施設2

施設名 (任意)

アズビルプロダクションタイランド株式会社

国/地域および河川流域

タイ	その他、具体的にお答えください (チョンブリー)
----	--------------------------

緯度

13.470889

経度

101.096371

水ストレス下にある地域に所在

はい

当該施設における発電の、主な発電源

<Not Applicable>

石油・天然ガスセクター事業部門

<Not Applicable>

当該施設における総取水量(メガリットル/年)

11.29

前報告年との総取水量の比較

多い

雨水、湿地帯の水、河川、湖水を含む淡水の地表水からの取水量

0

汽水の地表水/海水からの取水量

0

地下水からの取水量 - 再生可能

0

地下水からの取水量 - 再生不可能

0

随伴水/混合水からの取水量

0

第三者水源からの取水量

11.29

当該施設における総排水量(メガリットル/年)

11.29

前報告年との総排水量の比較

多い

淡水の地表水への排水

0

汽水の地表水/海水への排水

0

地下水への排水

0

第三者の放流先への排水

11.29

当該施設における水総消費量(メガリットル/年)

0

前報告年との総消費量の比較

ほぼ同じ

説明してください

2018年の総取水量は10.54。

W5.1a

(W5.1a) W5.1で挙げた施設について、外部の検証を受けている水データの比率をお答えください。

取水 – 総取水量

検証率 (%)

検証していない

利用した基準や方法論は何ですか。

<Not Applicable>

取水 – 水源別取水量

検証率 (%)

検証していない

利用した基準や方法論は何ですか。

<Not Applicable>

取水量 - 水質

検証率 (%)

検証していない

利用した基準や方法論は何ですか。

<Not Applicable>

排水 – 総排水量

検証率 (%)

検証していない

利用した基準や方法論は何ですか。

<Not Applicable>

排水 – 放流先別排水量

検証率 (%)

検証していない

利用した基準や方法論は何ですか。

<Not Applicable>

排水 – 処理方法別排水量

検証率 (%)

検証していない

利用した基準や方法論は何ですか。

<Not Applicable>

排水の質 – 標準的廃液パラメータ別

検証率 (%)

検証していない

利用した基準や方法論は何ですか。

<Not Applicable>

排水の質 – 温度

検証率 (%)

検証していない

利用した基準や方法論は何ですか。

<Not Applicable>

水消費量 – 総消費量

検証率 (%)

検証していない

利用した基準や方法論は何ですか。

<Not Applicable>

リサイクル水/再利用水

検証率 (%)

検証していない

利用した基準や方法論は何ですか。

<Not Applicable>

W6. ガバナンス

W6.1

(W6.1) 貴社には水に関する企業方針がありますか？

はい、水に関する企業方針があり、文書化して公開しています

W6.1a

(W6.1a) 貴社の水に関する企業方針の適用範囲と内容について、最もよくあてはまるものを選択してください。

スコープ	内容	説明してください
行1 全社的	企業の水に関する定量的目標と定性的目標 規制順守にとどまらず、それ以上の誓約	持続可能な三つの社会（低炭素、循環型、自然共生）の実現に向け、アズビルグループ中期経営計画に資源循環の取組み強化の一環として水リスク（取水、排水、BCP）への対応を取り入れています。その結果、汚染予防や水リスク回避の強化、コスト削減が期待されます。

W6.2

(W6.2) 貴社内では、水関連問題について取締役会レベルの監督が実施されていますか。

はい

W6.2a

(W6.2a) 取締役会における水関連問題の責任者の職位をお答えください (個人の名前は含めないでください)。

個人の職位	説明してください
その他の経営幹部役員	アズビルグループ環境負荷改革担当役員

W6.2b

(W6.2b) 水関連問題に対する取締役会の監督について、その詳細を説明してください。

水関連の問題が予定された議題として取り上げられる頻度	水関連の問題が組み込まれているガバナンス構造	説明してください
行1 予定されている - 一部の会議	事業計画の審議と指導 リスク管理方針の審議と指導	アズビルグループ中期経営計画の審議の中で、水リスク評価とそれに伴う対応について審議されます。また、重要な問題が発生した場合には、担当役員の見解で議題として取り上げられます。

W6.3

(W6.3) 水関連問題に責任を負う最高管理レベルの職位または委員会をお答えください (個人の名前は含めないでください)。

職位または委員会

安全、衛生、環境、および品質委員会

責任

水関連のリスクと機会の管理

水関連問題に関して取締役会に報告する頻度

半年に1回

説明してください

環境委員会では、水使用量、規制動向、外部コミュニケーションの結果などが報告されます。事故など重要な問題の発生時は、その都度担当役員に報告されます。

W6.4

(W6.4) 水関連問題の管理に関して、経営幹部レベル役員または取締役にインセンティブを付与していますか。

	水関連問題の管理に対してインセンティブを付与します	コメント
行1	いいえ、今後2年以内に導入予定もない	

W6.5

(W6.5) 貴社では、水に関する公共政策に直接的または間接的に影響を及ぼしうる活動に、以下のいずれかを通じて関与していますか？
いいえ

W6.6

(W6.6) 貴社は、水関連のリスクへの対応に関する情報を直近の財務報告書に含めましたか。
はい (任意で報告書を添付していただけます)

W7. 事業戦略

W7.1

(W7.1) 水関連問題は、貴社の長期的・戦略的事業計画のいずれかの側面に組み込まれていますか。もしそうであれば、どのように組み込まれていますか。

	水関連の問題が組み込まれていますか。	長期的な対象期間(年)	説明してください
長期的な事業目的	いいえ、水関連の問題のレビューをまだ行っていませんが、今後2年以内に実施予定です	<Not Applicable>	近年、異常気象による水による災害が増えており、BCPの観点から対策を講じていますが、現時点では水関連リスク対応を長期事業目標に設定する必要性はないと判断しています。
長期目的達成のための戦略	いいえ、水関連の問題のレビューを行いました、戦略的に関連性がある/重要であるとはみなされませんでした	5-10	
財務計画	いいえ、水関連の問題のレビューを行いました、戦略的に関連性がある/重要であるとはみなされませんでした	5-10	

W7.2

(W7.2) 報告年における貴社の水関連の設備投資費 (CAPEX) と操業費 (OPEX) の傾向と、次報告年に予想される傾向をお答えください。

行1

水関連の設備投資費(+/- %)

-7.98

次報告年の設備投資費予想 (+/- %)

0

水関連の操業費 (+/- %)

-6.93

次報告年の操業費 (+/- %)

0

説明してください

現在、グローバル生産体制を整備中で、工場等の統廃合や建物の建設等を進めています。従って、水関連の設備投資も既設設備の修理が主で、大きな設備投資は今後の計画としています。また、水関連操業費は水道料金が大半を占めていますので、水使用量が減少し、OPEXは前年度から減少しました。

W7.3

(W7.3) 貴社では、気候関連シナリオ分析で得られる情報を事業戦略に利用していますか。

	気候関連シナリオ分析の利用	コメント
行1	はい	気候変動のシナリオ分析と合わせて、水リスクに関するシナリオ分析を実施し、BCP対応の観点からの洪水リスク等への対応などにも取り組んでいます。

W7.3a

(W7.3a) 貴社の気候関連シナリオ分析では、水に関連した何らかの分析結果が確認されましたか。
はい

W7.3b

(W7.3b) 気候関連シナリオ分析で確認された水関連の分析結果はどのようなものですか？また、貴社はどのように対応しましたか？

適用される気候関連シナリオとモデル	水関連の可能性のある分析結果の詳細	水関連の可能性のある分析結果への企業の対応
行1 代表濃度 経路シナリオ (RCP) 2.6	「IPCC report communicator ガイドブック-WG1基礎知識編~」（環境省）によると、有効な気候変動対策が取られなかった場合（RCP8.5）の降水量の変化予測として、海外主要生産拠点のある中国、タイでの降水量が増加するという予測となっています。また、「IPCC report communicator ガイドブック-WG2基礎知識編~」（環境省）によると、日本においても降水量の少ない年と多い年の差が拡大する傾向があり、渇水と洪水の発生リスクが高くなっています。	中国、タイの主要生産拠点においては、BCPの観点からの洪水リスクに備えた対策を取っています。例えば、2015年に設立したアズビルプロダクションタイランド株式会社では、洪水の発生の可能性を考慮し、盛り土を行ったうえで工場を建設しました。日本における洪水リスクに対しては、BCPの観点からの取組みを継続し、拠点の地域特性に応じて必要な対策を実施しています。例えば、研究開発拠点である藤沢テクノセンターは敷地のすぐ近くに川が位置しており、他拠点と比較し洪水リスクが高いと考えています。そのため、主要な設備（電源設備、コンプレッサーなど）はすべて高床式の架台に設置され、万が一洪水が発生した場合においてもリスクを回避できるように対応しています。渇水のリスクについては、引き続き水使用量を把握、削減の取組みを継続します。

W7.4

(W7.4) 貴社では、水に対して内部的価格付け（水プライシング）を実施していますか？

行1

貴社では、水に対して内部的価格付け（水プライシング）を実施していますか？

いいえ、今後2年以内に実施する予定もありません

説明してください

今後とも大量の水使用の可能性はそれほど高くないので、水の価格付けは優先事項ではありません。

W8. 目標

W8.1

(W8.1) 水関連の目標や目的を、どのように設定・モニタリングしているかについて説明してください。

	定量的目標（target）及び/もしくは定性的目標（goal）のレベル	企業レベルのモニタリング	定量的目標及び/もしくは定性的目標の設定とモニタリングの方法
行1	全社的な定量的目標（target）及び定性的目標（goal）	定量的目標（target）を企業レベルでモニタリングしている 定性的目標（goal）を企業レベルでモニタリングしている	水使用量の目標は前年実績以下とし、事業所ごとに毎月データを自社開発の環境情報管理システムに投入し、集計する仕組みにしています。

W8.1a

(W8.1a) 企業レベルでモニタリングし、進捗が見られる水目標を具体的にお答えください。

目標参照番号

目標1

定量的目標のカテゴリ

取水

レベル

全社的

一番の動機

環境インパクト軽減

定量的目標の詳細

目標は水使用量を前年度以下とすることとしています。売上高は拡大する計画ですが、水使用量は増やさない計画としています。レベルを全社としているのはグループ内での生産移管等が発生するためです。

定量指標

総取水量の絶対的削減量

基準年

2019

開始年

2020

目標年

2021

目標達成度 (%)

0

説明してください

中期目標は水使用量を前年度以下としていますが、目標の管理は年度ごとにローリングさせて運用することとしています。

W8.1b

(W8.1b) 企業レベルでモニタリングし、進捗が見られる水関連定性的目標を具体的にお答えください。

定性的目標

その他、具体的にお答えください(持続可能な社会の実現)

レベル

全社的

動機

環境インパクト軽減

定性的目標の詳細

グループ全体で自らの事業活動における環境負荷低減に取り組んでいます。

基準年

2006

開始年

2006

終了年

2021

進捗

アズビルグループ中期経営計画を策定し、環境負荷低減に取り組んでいます。2019年度の水使用量は2006年度比28%削減しています。

W9. 検証

W9.1

(W9.1) CDP情報開示で報告する(W5.1aの対象を除く)その他の水情報について、検証を実施していますか。

いいえ、現在はCDP情報開示で報告する他の水関連情報を検証していません

W10. 最終承認

W-FI

(W-FI) この欄に、貴社の回答に関連すると考えられる追加情報や背景事情を記入してください。この欄は任意で、採点されないことにご注意ください。

W10.1

(W10.1) このCDP水セキュリティ質問書への回答を最終承認する者に関する詳細を記入してください。

	役職	職種
行1	代表取締役社長 執行役員社長	最高経営責任者(CEO)

W10.2

(W10.2) インパクトおよびリスク対応戦略に関して貴社が公的に開示したデータをCDPがCEO ウォーターマンデートのウォーターアクションハブに転送することに同意いただけるかどうかを示してください[W2.1a(インパクトへの対応)、W4.2とW4.2a(リスクへの対応)のみに当てはまります]。
選択してください

回答を提出

どの言語で回答を提出しますか？

日本語

回答がどのようにCDPの手に取り扱われるべきかを確認してください

	提出します	公開または非公開の提出
回答を提出します	投資家	公開

以下をご確認ください

適用条件を読み、同意します